

大型クラゲによる漁業被害を軽減する装置の開発

漁業生産工学部
(協力:千葉県銚子水産事務所)

研究の背景・目的

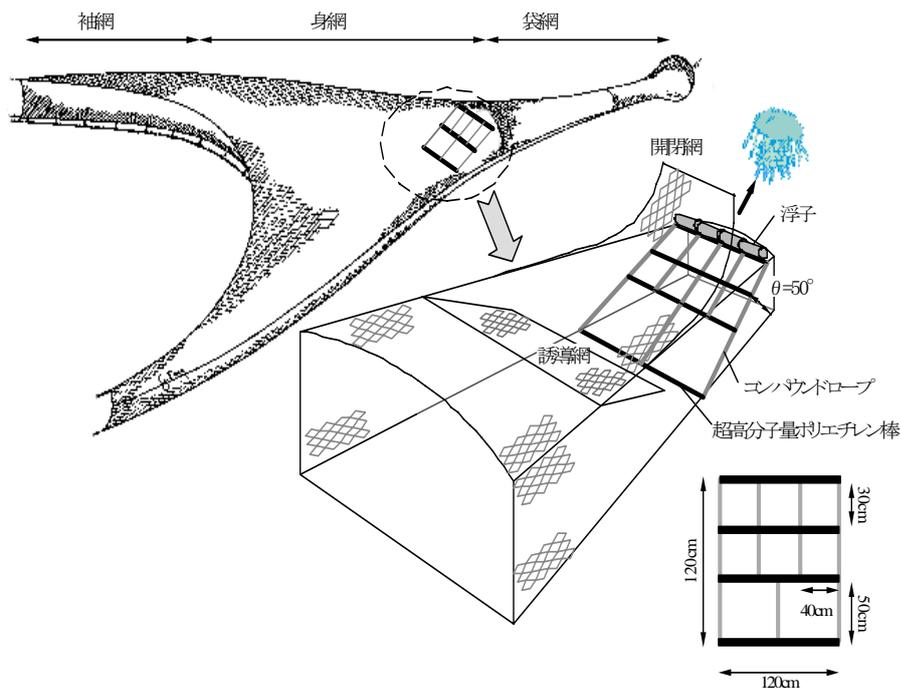
1. 底びき網に大型クラゲが入ると、網を巻き上げられなくなったり、漁獲物の品質が低下したりするなどの漁業被害が生じる
2. これまでに開発した、大型クラゲを排出する装置は金属製のグリッド(スノコ)があるため、ネットウインチに巻き込めないなどの問題が生じる場合があった
3. この問題を解決するため、柔軟な構造を持つグリッドを開発する

研究成果

1. 堅い材料(プラスチックの棒)と柔らかい材料(コンパウンドロープ)を組み合わせ、柔軟な構造を持つグリッドを製作した
2. 本グリッドは、金属製のグリッドに比べて甲板上での取り扱いが容易になり、ネットウインチへの巻き込みにも対応できた
3. 本グリッドを装着した底びき網は、漁獲対象となるヒラメやカレイ類を逃避させることなく、重量比で65%の大型クラゲを網から排出した

波及効果

1. 漁具や対象生物にあわせてグリッドの間隔や角度を調整することで、他地域でも適用が期待される



(漁法研究室・藤田薫)